

# 議案第16号 資料3

## 調査研究報告書 ⑥

### 社会(歴史的分野)

発行者の 番号略称	書名	学習指導要領との 関連	内容	構成・分量・装丁	表記・表現
225 自由社	新しい歴史教科書	<p>・学習指導要領に示されている目標、内容、指導計画の作成と内容の取扱いを踏まえ、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を重視している。</p> <p>・教育内容の主な改善事項のうち、「言語活動の充実」に関連して、調べたことやわかったことを文章にまとめることを重視した構成としている。</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人物クローズアップ」のコラムを設け、歴史上の人物への興味や関心を高めるように、その人物の解説を掲載している。</li> <li>・本文の記述を補う注を設けて解説を掲載したり、「歴史の言葉」や「知っ得ポイント」を設けて事象についての詳細な説明を掲載したりしている。</li> <li>・各ページに「歴史モノサシ」として年表を設けて単元で扱うおおよその時期を示したり、章末に「復習問題のページ」を設けて知識を確認するページを掲載したりしている。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各見開きのページに学習課題を示すとともに、単元を学習したあと挑戦したいワンポイントの課題として「チャレンジ」を設けている。</li> <li>・自分の考えを伝え合う活動ができるように、章末に「時代の特徴を考えるページ」を設けている。</li> <li>・日本の歴史の特色について考察したり構想したりしてまとめられるように、巻末に「歴史を学んで」を設けている。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・序章「歴史のとらえ方」では、興味ある人物について調べる設定で、800字の人物伝記を掲載している。</li> <li>・調べ方を確認したり、さらに調べたいことを調べられるように、章末に「調べ学習のページ」を掲載している。</li> </ul> <p>【かわさき教育プラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人物クローズアップ」のコラムでは、終戦から半年後、昭和天皇が川崎市の工場を訪問したことを掲載している。</li> </ul>	<p>【主体的・対話的で深い学びに関わる構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各章の扉で資料から疑問を投げかけ、各授業の学習課題を設定している。</li> <li>・時代や人物を比較したり、時代の特徴を表現したりして、単元で学んだことをまとめられるように、各章末の「時代の特徴を考えるページ」を設けている。</li> <li>・序章で、学習の導入として年代の表し方、調べ方やまとめ方などを掲載している。</li> </ul> <p>【分量・装丁】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AB判を採用している。</li> <li>・本文は見開き2ページで1つの学習単位になるよう掲載している。</li> <li>・年表について、巻末の綴じ込みや、各ページの下部などに掲載している。</li> </ul>	<p>【読みやすさの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各章の扉や各ページで、キャラクターが疑問を投げかけたり、解説したりしている。</li> <li>・世界遺産、国宝、重文などのマークを掲載している。</li> <li>・歴史上の文書・文献がもとになっている資料であることを示すマークを掲載している。</li> </ul>
17 教出	中学社会 歴史 未来をひらく	<p>・学習指導要領に示されている目標、内容、指導計画の作成と内容の取扱いを踏まえ、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を重視している。</p> <p>・教育内容の主な改善事項のうち、「言語活動の充実」に関連して、見通し、振り返りの学習活動を重視した単元構成としている。</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用語について側注や「解説」による説明を設け、各章のまとめには、用語の確認や事象が起きた場所の確認等を行えるよう、章の範囲の年表を掲載している。</li> <li>・各章の導入で「学習を始めよう」のページを設け、時代の特徴の理解に向け、絵画資料から時代を概観する設問を掲載している。</li> <li>・歴史学習の基本的な技能を身につけることができるように、「歴史の技」コーナーでは、資料活用に関わる問いや解説を設けている。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各章のまとめと表現のページでは、多面的・多角的に時代の特徴をつかめるよう、年表や地図を掲載し、その時代の特徴を説明するコーナーを設ける構成にしている。</li> <li>・各見開きの左ページの学習課題の欄に、時代の流れを把握しやすいよう、時代スケールを掲載している。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各章の導入では、「学習を始めよう」のページを設け、大きな絵画資料を読み取り、興味関心を高める設問を設けている。</li> <li>・「歴史学習の終わりに」で自然災害を取り上げ、歴史の学びをどのように生かしていくか問いかけ、現代の課題を考えるページを掲載している。</li> </ul> <p>【かわさき教育プラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「歴史学習のおわりに」では、現代の課題を考える参考としてSDGsの目標を示している。</li> <li>・「身近な地域の歴史を調べよう」のページでは、各地域の歴史を取り扱い、中世では、「地域の寺社を訪ねて」で鎌倉の円覚寺を取り上げ、近世では「地域の街道や港を訪ねて」で箱根の関所を取り上げ、現代では「移り変わる戦後の街を訪ねて」で川崎市の土地利用、人口や産業の移り変わり、臨海部を掲載している。</li> </ul>	<p>【主体的・対話的で深い学びに関わる構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見開き左ページで学習課題、右ページで学習したことをまとめ確認したり表現したりする「確認！」「表現！」を設定している。</li> <li>・各節の導入に節のテーマ、節のまとめでキーワードを例示し、節を振り返る欄を設けている。章の導入には章全体に関わる問いを、章末には時代の特徴を振り返る問いを掲載している。</li> <li>・各章の導入に「まなびリンク」を設け、二次元コードとURLを掲載している。</li> </ul> <p>【分量・装丁】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・AB判を採用している。</li> <li>・巻末の年表はどじ込みを開くことで、全体を見通せるようにし、日本と世界の歴史を併記している。また、裏面には世界地図の歴史として、古代から、中世、近世にかけての世界地図の変遷を掲載している。</li> </ul>	<p>【読みやすさの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各見開きページでキャラクターが登場し、学習課題に対する疑問を提示している。</li> <li>・見やすく読みましがいいにくいユニバーサルデザインフォントを採用している旨を掲載している。</li> <li>・色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮している旨を記載している。</li> <li>・「歴史をさぐる」ページの下部には、公民、地理との関連を示すマークを掲載している。</li> </ul>

## 調査研究報告書⑤

### 社会(歴史的分野)

発行者の番号 略称	書名	内容	構成・分量・装丁	表記・表現
225 自由社	新しい歴史教科書	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人物に焦点をあて、コラムや解説を掲載している。</li> <li>用語については、側注に解説を掲載している。</li> <li>章末に「復習問題のページ」を設け、知識を確認するページを掲載している。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各ページに学習課題とチャレンジを設け、諸資料をもとに考察することができるようにしている。</li> <li>章末に「時代の特徴を考えるページ」を設け、時代を大観し、自分の考えを伝え合う活動ができるような掲載にしている。</li> <li>巻末に「歴史を学んで」を設け、日本の歴史の特色を考察したり構想したりしてまとめることができるようにしている。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>序章「歴史のとらえ方」では、興味ある人物について調べる設定で、800字の人物伝記を掲載している。</li> <li>章末に「調べ学習のページ」を設け、調べ方を掲載するとともに、さらに調べたいことを調べられるようにしている。</li> </ul> <p>【かわさき教育プラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域の歴史を調べる」では、大阪府堺市を掲載している。</li> </ul>	<p>【主体的・対話的で深い学びに関わる構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各章の扉で資料から疑問を投げかけ、各授業の学習課題を設定している。</li> <li>各章末の「時代の特徴を考えるページ」を設け、時代や人物を比較したり、時代の特徴を表現したりして、単元で学んだことをまとめられるようにしている。</li> <li>序章で、学習の導入として年代の表し方、調べ方やまとめ方などを掲載している。</li> </ul> <p>【分量・装丁】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本文は見開き2ページで1つの学習単位になるよう掲載している。</li> <li>年表について、巻末の綴じ込みや、各ページの下部などに掲載している。</li> </ul>	<p>【読みやすさの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各章の扉や各ページで、キャラクターが疑問を投げかけたり、解説したりしている。</li> <li>世界遺産、国宝、重文などのマークを使用している。</li> </ul>
17 教出	中学社会 歴史 未来をひらく	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「歴史を探ろう」では、その時代の歴史の動きや、人々の生活の様子を掲載している。</li> <li>用語解説を同じページの側注に掲載している。</li> <li>「学習のまとめと表現」では、年表を読み取り、知識の確認ができるような問いを設定している。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各章の導入の「学習を始めよう」のページでは、絵画の資料から時代を概観し、変化や特色を考える設問を掲載している。</li> <li>節ごとに課題を設定し、見開き左ページに年表のモノサシを示すことで、流れや区分を意識しながら学習できるようにしている。</li> <li>「確認!」「表現!」を各ページに掲載し、思考を深めたり、表現を工夫したりできる問いを設定している。</li> </ul> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「現代」の学習や「歴史学習の終わりに」において、公民との接続も踏まえ、現代の課題を示している。</li> <li>第1章の「歴史のとらえ方・調べ方」では、小学校の既習事項を生かしながら、課題設定の仕方、資料の集め方、発表の仕方等を掲載している。</li> </ul> <p>【かわさき教育プラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「身近な地域を調べよう」では、鎌倉市、川崎市を掲載している。</li> </ul>	<p>【主体的・対話的で深い学びに関わる構成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>節ごとに学習課題を掲載し、その節の終わりに「○節をとらえる」という課題を掲載している。</li> <li>各章のはじめに「まなびリンク」を設け、二次元コードとURLを掲載している。</li> <li>章末の「学習のまとめと表現」では、日本と世界の歴史の移り変わりがわかる年表と、章を振り返る問いを掲載している。</li> </ul> <p>【分量・装丁】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見開き2ページごとに学習課題を設定している。</li> <li>年表を巻末の綴じ込みで掲載し、章扉と各見開きページの学習課題の上部に掲載している。</li> </ul>	<p>【読みやすさの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャラクターが歴史的な見方・考え方を働かせて学習している様子を掲載している。</li> <li>章ごとにタイトルの背景色を変えるなど、ユニバーサルデザインを考えた掲載をしている。</li> <li>世界遺産、国宝、重要文化財などのマークを使用している。</li> </ul>